

外国につながる子ども*の支援に関わる YOKE の取り組み

(公財) 横浜市国際交流協会 (YOKE)

*「外国につながる子ども」とは、両親の両方又はどちらかが外国籍である等、本人の国籍を問わず、様々な形で外国につながる子どもたちを総称して使用しています。(裏面 (2) 参照)

子ども支援

外国につながる子どものための学習支援教室・支援者へのサポート

①外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会

外国につながる子どもへの学習支援者を対象に研修会を実施しています。普段の活動のヒントが得られること、支援者同士のつながりづくりを大切にしています。

②横浜市国際交流ラウンジ協議会 学習支援分科会

市内国際交流ラウンジの学習支援教室が情報交換を行い、教室での取り組みや課題について、お互いに共通理解を持つ機会です。

③外国につながる子どもの学習支援教室 情報交換会 (横浜)

市内の学習支援教室の担当者が集まり、主に運営上の取り組みや課題を共有し、お互いに知り合い、つながりを作る機会です。

④個別訪問事業「まちのにほんご伴走隊」

地域の皆さんの活動における課題解決等のため、YOKE スタッフやアドバイザー(地域日本語教育の専門家等)がサポートします。

◇ 学習支援教室への訪問相談・講座の実施

⑤みんなどうしてる？ 外国につながる子どもの学習支援教室 活動ヒント集

市内の学習支援教室の多様な声を集めた活動のためのヒント集です。学習支援に興味のある方も対象として作成しています。



◇ 国際交流ラウンジ主催のボランティア研修 (中区・鶴見区) (注)

就学前の子どもと親への支援 (子育て支援・親子教室)

子育て支援の場で、気軽に日本語を学ぶ活動の提案などをしています。講師派遣なども承ります。

【これまでの取組例】

- ◇ 親子日本語教室「おやこで にほんご」
- ◇ 外国につながる子どものことばと育ち勉強会
- ◇ 「おやこにほんごタイム 活動ネタ集」の発行 ⇒⇒
- ◇ 事例発表: まちのにほんごプラットフォーム～外国につながる子ども・親を支える現場から (2016年度)
- ◇ 就学前の子どもと親の支援に関する取組調査 (2014・2015年度)



(注) 市内 12 国際交流ラウンジのうち、YOKE が運営するラウンジ
中区: なか国際交流ラウンジ
鶴見区: 鶴見国際交流ラウンジ

国際交流ラウンジ主催の 学習支援教室運営 (中学生/小中学生対象) (中区・鶴見区) (注)

若者支援

Rainbow スペースの運営 (中区)
中区・外国人中学生学習支援教室の卒業生等による「若者の居場所づくり」

横浜市多文化共生 総合相談センター

- ◇ 12 言語での相談・情報提供
- ◇ 生活相談・教育相談 他
- ◇ 通訳ボランティア派遣



よこはま日本語学習 支援センター

- ◇ 地域日本語教育の体制づくりの拠点
- ◇ 外国人住民の日本語習得支援のための拠点



日本語・学習支援 教室 データベース (横浜)

横浜市内約 135 の日本語教室や学習支援教室の検索ができます。また団体のゆるやかなネットワーク作りに繋がっています。



<参考> 外国につながる子どもの現状

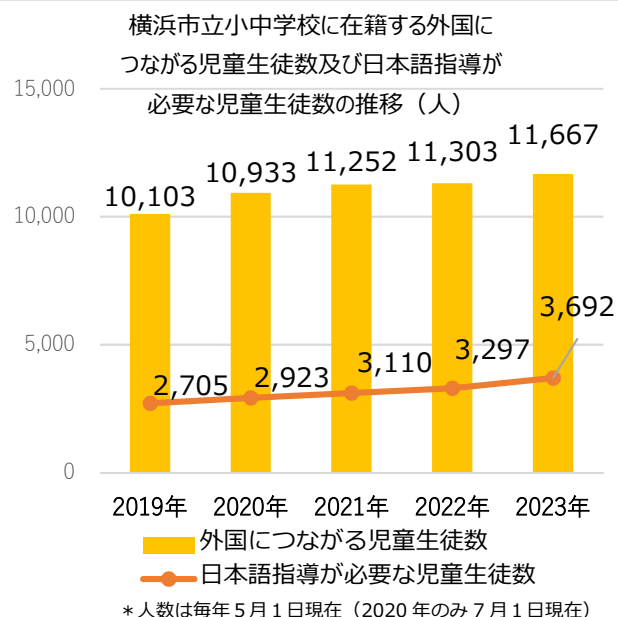
(1) 横浜市の現状

① **外国人人口** (横浜市調べ 2023年4月30日現在)
110,321人 (総人口の約2.9%)

② **外国につながる子ども** (外国籍・日本国籍含む)
(市教育委員会調べ 2023年5月1日現在)
外国につながる児童生徒数: 11,667人
日本語指導が必要な児童生徒数: 3,692人

★横浜市の日本語指導が必要な児童生徒数は神奈川県内で最も多く、さらに年々増加しています。(右表参照)

(参考: 横浜市人口統計、横浜市教育委員会資料 他)



(2) 外国につながる子どもって? ~多様な子どもたち~

① 日本以外の国とつながりがあり、
多様な背景をもつ子ども



<どんな点で?>

来日の経緯(年齢、時期、理由等)、家族・家庭状況、来日前の生育環境・学習環境、来日後の生活環境、サポートの状況、将来の見通し他

② 複数の言語と関わりながら
多様な成長・発達の過程にある子ども



<どんな点で?>

母語やその他の言語を含めた複数言語環境の中での育ち、複数言語の発達、生活言語能力と学習言語能力他

多様な外国につながる子どもたちの育ちを支えるために
地域でのさまざまな支援が必要です

<子ども>

「日本と母国を行ったり来たりしている。」

「高校進学後にサポートを受ける場が少ない。」

「居場所がほしい。」

<支援者>

「子どもが増えているが、学習支援を担うボランティアが足りない!」

「ボランティア研修が必要だと思うが、実際にはなかなかできない!」

<保護者>

「家庭では、親は母語、子どもは日本語。」

「母国のことばや文化を忘れないように、家では母語を使うようにしている。」

「日本で高校進学させたいが、日本語が苦手だし、入試システムがよくわからない。」



〔問合せ〕(公財)横浜市国際交流協会(YOKE) 外国につながる子ども・若者支援事業担当
TEL: 045-222-1173 E-mail: c-nihongo@yoke.or.jp
<https://www.yokeweb.com>